

# おむすびと数学

北海道算数数学教育会  
小学校部会 札幌支部  
平成17(2005)年6月15日発行

No. 124

## 60回記念札幌大会の成功に向けて

北数教札幌支部支部長

札幌市立幌西小学校長

鈴木富士雄

この4月から、学習指導要領一部改正に伴う教育(授業)を開始している。この教育をどのように計画し、実践をしていくのが各学校の課題となっている。特に、算数の授業においては、「個に応じた指導」の工夫(習熟度別指導や発展的学習・補充的学習を取り入れた授業)と、OECDの学力調査結果等(PISA)で指摘される日本の子供の「自ら考える力」や「学ぶ意欲」の低下の問題への対応を具体的に進めていかなければならない。

一方、文部科学省は先日、昨年度末に実施した全国学力テストについて、学力が回復傾向にあるという結果を公表した。その根拠として、2002年度の前回と同一問題において、教科・学年別の正答率が一部を除いて上昇していることをあげている。この結果については、この比較だけでは、必ずしも学力低下が克服したとはいえないという見方もある。

この学力低下に関する結果やその解釈の議論は、非常に限定された学力についてなされているものであり、今後学校において、繰り返し練習の時間を増やすなど、安易な対症療法的な対策が講じられる心配がある。「基礎基本」、「学力」といった学力観を今一度吟味するとともに、学校教育役割とは何かを問いながら、私たち教師の熱意と実践に向かう意欲の中で、学力向上の問題解決に迫っていききたいものである。

本年度の北数教札幌支部の研究活動が開始した。本部の研究課題との連携を大切にしながら、支部研究の課題に取り組みたい。

私たちが目標とする算数の授業は、子供たち

に質のよい問題解決の学習を経験させ、その過程で算数の概念や数学的な考え方、算数の学び方を獲得させることである。子供が自分の疑問や問いを納得いくまで追求する、自分の中にファイルされている知識を活用して新しい概念を導き出す、子供と教師の協働によって算数の価値を探り当てるなど、子供の思考の深まりや深い分かりを引き出す質の高い問題解決の学習を創造することである。

このような学習においては、子供の葛藤やつまずきとの出会いを大切にしたい。それは、これらの困難を克服する過程に、子供の深い分かりに到達する要因や、問題解決の満足感の味わいが存在するからである。

算数を学ぶことを面白いと思っている教師が、そのことを子供に伝えるために日々の授業を工夫している教師が集まり、夜遅くまで論議をしている組織が北数教である。特に札幌支部は学年部会を組織し、授業改善の課題を共有しながら、お互いの実践を成長させている。

本年度は、本次3か年研究のまとめの年である。研究の視点や実践の主張を鮮明にして進めた前年度の研究の成果を、一層深化・発展させたい。また、これらの成果を、「学力向上」など算数教育の今日的課題から今一度吟味し、これからの研究や実践のよりどころとなる実践事例集にまとめたい。

また、本年度の研究大会は、北数教の60回の記念大会を兼ねている。研究活動の充実を通して、この記念大会成功に向けて、会員個々の力を発揮してほしい。支部研究の成果が、全道の算数教育や算数の授業に新鮮で本質的な示唆を与え、同時に確かな学力向上に反映されることを期待したい。